

\*昨年、布地の輸入販売を中心に手がける事業所「アンカラ Tamo」を立ち上げた小関初美さんをご紹介します。

小関 初美 (旧姓 江島)  
昭和 57 年度卒 家政科

### 「日田の竹箸から始まった ナイジェリア布との交流」

私は昭和女子高校卒業後、日田で働き結婚して子育てを終えました。

子供が大学生のときに、息子の様子を見る為と逆に日田の様子を見せる為に SNS を始め写真を投稿するようになりました。その写真が日本好きのナイジェリアの大学生の目に留まりました。彼は恐る恐る私にコメントを入れて来ました。「日本のお箸で食べてみたい」と言うのです。

私はその時、竹箸を大量に持っていたので彼がいる大学に竹箸を送りました。それから半年以上経った時、彼からブレスレットと現地のインスタント麺が送られて来ました。

私たち日本人から見ればおもちゃみたいなブレスレットでしたが、それを包んでいた布は子供の頃明治生まれのおばあちゃんの引き出しを開いた時の感慨を覚えたのです。

その布に興味を持った私は「日本に送ってください」とお願いし交流が始まりました。

その後、私の SNS を知った龍谷大学教授から、アフリカプリントに詳しい京都工芸繊維大学の教授を紹介され、かつて日本が ODA 活動でナイジェリアにテキスタイル工場を作り、アフリカ各国にアフリカプリントを流通させ、ナイジェリア経済を支えていた事を知りました。1985 年のナイジェリアのクーデターで日本は撤退、その後ナイジェリア国内の経済は汚職や貧困差が激しくなり、その経済の要だったテキスタイルも廃れてしまったのです。

私は遠く離れた西アフリカの布地のルーツが日本の 10 大紡績会社が結集して作り出した事を日本中の人に広めたいと、布地だけではなく浴衣やバックなどにして展示会を行っています。またナイジェリアの人には日本の作品を紹介し、その歴史を含め自国のテキスタイルに誇りを持つように活動を行っています。更に日本で学びたいと言う学生の力になればと、大学と情報共有し奨学金申請等の情報をナイジェリアに送っています。

\*高校時代は剣道一筋で活躍していた小関さん。いつも前向きにバイタリティに溢れた姿は私たち同窓生の憧れです。同窓会役員としても協力していただいています。





